

各 位

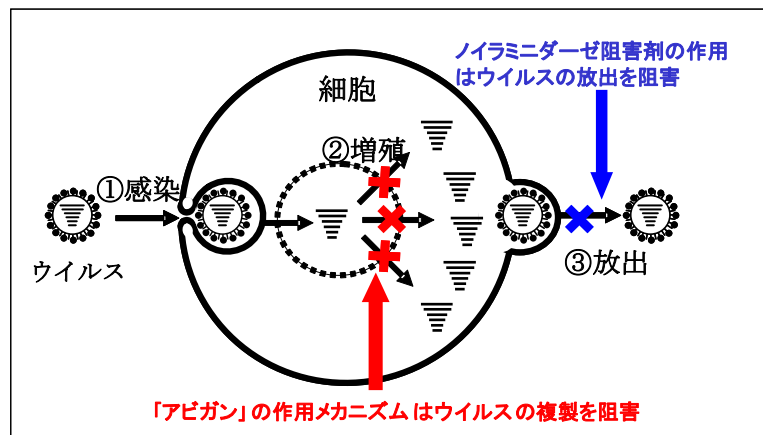
会 社 名 富士フイルムホールディングス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 中嶋 成博  
(コード番号：4901 東証第一部・名証第一部)  
経営企画部  
問 合 せ 先 コーポレートコミュニケーション室長  
岡田 淳二  
(TEL：03-6271-1111)

## 抗インフルエンザウイルス薬「アビガン<sup>®</sup>錠 200mg」の 日本国内での製造販売承認取得のお知らせ

当社の子会社である富山化学工業株式会社（以下、富山化学）は、このたび、錠剤タイプの新しい抗インフルエンザウイルス薬「アビガン<sup>®</sup>錠 200mg」（一般名：ファビピラビル、開発品コード：T-705、以下「アビガン」）の製造販売承認を取得いたしましたのでお知らせします。

インフルエンザウイルスは、感染した細胞内で遺伝子を複製し、増殖・放出することで他の細胞に感染を拡大します。現在、治療に用いられているノイラミニダーゼ阻害剤は、その放出を阻害して感染の拡大を防ぐものですが、「アビガン」は、ウイルスの細胞内での遺伝子複製を阻害することで増殖を防ぐという新しいメカニズムを有する薬剤（RNAポリメラーゼ阻害剤）です。

本剤のこのような特徴から、鳥インフルエンザウイルス A (H5N1) 及び A (H7N9) 等に対する抗ウイルス作用が期待されており、実験動物レベルでは既に効果が確認されています。



「アビガン」は、最近のインフルエンザを取り巻く現状をふまえ、新型又は再興型インフルエンザウイルス感染症が発生し、ノイラミニダーゼ阻害剤等の他の抗インフルエンザ薬が無効又は効果不十分である場合に備え、新しいメカニズムを有する「アビガン」を使用可能な状況にしておくことは意義があると判断され、世界に先駆けて国内で承認となりました。

「アビガン」は、新型又は再興型インフルエンザウイルス感染症が発生し、本剤を当該インフルエンザウイルスへの対策に使用すると国が判断した場合に、患者への投与が検討される医薬品です。したがって、直ちに医家向けに販売するものではなく、厚生労働大臣から要請を受けて製造・供給等を行います。

富山化学は、「アビガン」に対する社会からの期待を真摯に受け止め、厚生労働大臣から製造要請があった場合に備え、流通管理と安全対策に十分留意しつつ速やかに対応ができるよう、安定供給体制を構築していきます。

【「アビガン」の製品概要】

販売名	アビガン <sup>®</sup> 錠200mg
一般名	ファビピラビル
効能・効果	新型又は再興型インフルエンザウイルス感染症（ただし、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効又は効果不十分のものに限る。）
用法・用量	通常、成人にはファビピラビルとして1日目は1回1600mgを1日2回、2日目から5日目は1回600mgを1日2回経口投与する。総投与期間は5日間とすること。
製造販売承認日	平成26年3月24日

以上